

2010年7月30日
マツダ株式会社

2011年3月期 第1四半期 決算発表
主な質疑応答

Q: 今期(2011年3月期)の主要通貨に対する為替感応度を教えて欲しい。

A: 1円変動することによる年間の連結営業利益への影響額は、US\$で30億円、ユーロで12億円、カナダ\$で10億円、オーストラリア\$で15億円です。

Q: 第1四半期 フリー・キャッシュ・フロー146億円の黒字となった理由は？

A: 税引前利益が黒字だったことに加え、国内工場の稼働率向上や運転資金の改善により黒字のフリー・キャッシュ・フローを実現しました。

Q: 第1四半期(2010年4-6月)の主要市場別販売状況を教えてほしい。

A: 第1四半期のグローバル販売台数は、前年同期に対し5万4千台(21%)増加の31万7千台を達成することができました。商品面では Mazda2(日本名デミオ)、Mazda3(日本名アクセラ)、Mazda6(日本名アテンザ)の販売が好調で、主要国でのシェアアップを牽引しました。

日本国内では減税や補助金の追い風に加え、デミオ、アクセラが好調だったことから販売は5万2千台(前年同期比27%増)となり、シェアも向上しました。

北米ではMazda3などの好調により9万台(同21%増)を販売し、米国でのシェアもアップしました。米国ではブランド価値も向上しており、Mazda3、CX-9(いずれも2010モデルイヤー)の残存価値はセグメント中トップで、マツダブランド全体の残存価値も上位を維持しています。

欧州では自動車需要が減少している中、5万4千台(同8%減)の販売となりましたが、ドイツ、UKなどの主要国では前年に対し残存価値も向上し、シェアもアップしています。

中国ではMazda2、Mazda3、Mazda6などの主力車種が好調で5万3千台(同28%増)の販売を達成しました。中国では販売網の拡大にも取り組んでおり、今年12月末までに300店舗に拡大する計画は順調です。

その他市場では6万8千台(同41%増)の販売で、オーストラリアでは堅調なMazda3に加えMazda2、CX-7が好調で過去最高の2万2千台の販売となりました。タイ、インドネシアでもAAT(オートアライアンス(タイランド))製のMazda2導入が大きく貢献し、過去最高の販売台数となっています。

Q: 円高など厳しい事業環境の中で通期営業利益300億円を達成するために、どのような施策を考えていますか？

A: 為替の円高による懸念はありますが、以下の3点の施策に取り組むことで、期初に公表した通期見通しである営業利益300億円の達成を目指します。

① 拡販活動の強化、② 仕向地ミックスの改善、③ コスト領域での一層の効率化

###